

資料 5 - 3

大阪・関西万博 持続可能な調達ワーキンググループ
「パーム油の基準について」

2022年8月1日



足立直樹

Copyright © 2022 Response Ability, Inc. All Rights Reserved.

ドバイ万博 調達コード



- ガイドライン（推奨）でしかないのは弱い
- RSPOでcertifiedのもの以外を認めていない
- 大豆も取り上げているのは、欧州などの状況を考えれば当然

G-25 The supplier should demonstrate they have avoided the use of food products containing:

- palm oil products, unless Certified by Roundtable on Sustainable Palm Oil (RSPO) [Ref-16]
- soya products, unless Certified by the Roundtable on Sustainable Soy (RTRS) [Ref-17]

Source: "Expo 2020 RISE Guidelines for Sustainable Operations SUSTAINABILITY"

Copyright © 2022 Response Ability, Inc. All Rights Reserved.

東京オリパラ 「持続可能性に配慮した調達コード(第3版)」



- パーム油の対象（使用されている可能性のある商品）を具体的に示している。
- 持続可能な条件として①～④の条件を示しているが、実質的にはRPSO認証を使用するしかない。（ISPO、MSPOは意味はない）
- 森林等が「適切に保全されている」ことを求めているが、新規開発ゼロを求めるべき。
- 認証パーム油はIP、SG、MBであるとしながら、B&Cも事実上認めており弱い。
- （木材で見ると）違反通報チャンネルはきちんと機能しなかった。

認証制度を活用したことに対する批判について

- 認証制度は必ずしも高コストではない。価格が高くなるのは、外部不経済を内部化したから。独自に同じ内容の取り組みをしたら、はるかにコストは高くなるし、現実不可能。
- 民間の認証制度は、改善速度も早く、効率的。透明性・公平性も担保されている。
- 小農向けの制度も開発されており、大企業だけの制度ではない。

RSPO 4つのサプライ チェーンモデル

- RSPOに加盟しているだけでは意味はない。
- RSPOの認証モデルには4種類。
- 認証油を使用していると言えるのはIPとSG
- 日本ではB&Cの企業もまだ多い。

図出典：
<https://www.wwf.or.jp/activities/basinfo/3520.html>

サプライチェーンモデル	IP アイデンティティ・ プリザード	SG セグリゲーション	MB マスバランス	B&C ブック・アンド・ クレーム
使用可能なロゴマーク				
表記(例)	認証された持続可能なパーム油が <u>含まれています</u>	認証された持続可能なパーム油が <u>含まれています</u>	認証された持続可能なパーム油の生産に貢献しています	認証された持続可能なパーム油の生産を支持しています
トレーサビリティ	◎	○	△	×
認証油購入費用	¥¥¥¥	¥¥¥	¥¥	¥
会員要件	RSPO 正会員および準会員			

米ウォルマートは、PBについてはSGを要求

- 小売世界大手米ウォルマートは、2020年末までにパーム油ではRSPOのマスバランス認証100%、紙では認証紙もしくは再生紙100%を目標としていたが、2020年12月に目標の基準をさらに引き上げた。
- PBのパーム油は、SGへの移行を依頼
- NBでは、認証パームオイルを要求（実質MB）
- 牛肉調達¹は2020年、大豆²調達は2023年までに森林破壊ゼロ。

<https://corporate.walmart.com/newsroom/2020/12/22/walmart-continues-to-prioritize-forest-conservation-by-stepping-up-efforts-toward-2025>

出典：walmart 2020年12月22日

投資運用世界大手9社、投資先企業に森林破壊ゼロを要求

- 投資運用世界大手9社は2020年11月5日、投資先企業に対しサプライチェーン上の森林破壊ゼロを要求する新たな集团的エンゲージメント・イニシアチブを発足した。
- 9社の運用資産の総額は1.8兆ユーロ（約220兆円）。日本からも野村アセットマネジメントが参加。
- 同イニシアチブは、気候変動、生物多様性喪失、森林破壊による財務リスクの観点から投資先企業に森林破壊ゼロを求める。そのため、サプライヤーリストの公開や、特にマレーシアでのパーム栽培での森林破壊に関する企業との取引に関する情報の開示を要求する。

<https://www.actiam.com/en/actiam-news/news-release-investors-representing-over-1.8-trillion-in-assets-urge-companies-to-advance-no-deforestation-efforts-brede-coalitie-van-beleggers-roept-bedrijven-op-om-ontbossing-te-stoppen/>

出典：actiam 2020年11月5日

パーム油、大豆の背景（最近の国際動向）

- 気候変動枠組条約 COP26で2030年「森林破壊ゼロ」に世界143ヵ国が合意（森林・土地利用に関するグラスゴー・リーダーズ宣言）
- 森林破壊の大きな原因が、パーム油、大豆、紙・木材、牛
- 生物多様性条約COP15では、ネイチャー・ポジティブが世界目標として採択の見込み
- 生態系の破壊をストップ → 生態系の復元(restore)・再生 (regenerate)
- 英国は2021年秋に環境保護法を改定。森林リスクコモディティのデューデリジェンスを大企業に義務化。実質的に英国内で森林リスクコモディティは使用不可に。
- 欧州委員会は、英国より厳しい欧州指令を作ることを決定。

まとめと万博での調達コードへの提言

- 森林破壊フリーの原料しか使わないことは、既に世界的な流れ。
- 森林等生態系の破壊は最低限ゼロ、できれば回復・再生が求められている。
→ 現在の調達コードの表現はやや弱い。
- それに合致した基準とするには、パーム油についてはRSPOのIP、SGのみにすべき。
- 木材・紙以外に、パーム油、大豆、コーヒー、ココア、茶、水産物は個別基準を設けるべき。
- 博覧会協会以外のビリオン運営主体等の遵守をどう指導・監督するかも課題。
- 違反通報等に対して、是々非々の対応が必要。
- 「現状では対応できない」ではなく、万博をきっかけに「対応できる日本」に。

ありがとうございました。

ご意見・ご質問は、
info@responseability.jp

Copyright © 2022 Response Ability, Inc. All rights reserved. このプレゼンテーション文書の著作権は、株式会社レスポンスアビリティもしくは引用元の組織等にあります。事前の書面での許可なく、あらゆる形での複写、再利用、再配布、放送等は禁じられています。

万全の注意を払って作成していますが、内容の正確性等について保証するものではありません。